

詰めガイスター問題の後退解析による全列挙、修正内容

発表でご指摘がありました通り、
詰めガイスター問題の最長一意解問題（一般問題）に誤りがございました。

原因解明をしたところ、
解析結果を画像にする作業を「手作業」でしており、そこで
ヒューマンエラーが発生していたことが発覚いたしました。

＊解析プログラム自体のバグは現在発覚していません。

論文に掲載したデータに間違いがあることは、
研究者として本来あってはならないことですし、今回のテーマが「解析」である以上、
データの意味への信頼性が損なわれてしまいましたが、
十分な検証ができていない状態で
発表を迎えてしまったこと、深くお詫び申し上げます。

解析プログラムでは、このように解析され、19手ということでしたが、

最長手数の一意解(19[手])

result = 1

turn_count = 19

refer_count = 1

board =

.....

.....

.....

.. u. B.

... u. .

... R. .

teban = 0

edges =

25005 42759 54905 54977 57073 69819 198579

isEndState = 0

一意解? = Yes

画像化する段階で、全ての駒を1個ずつ右にずらしてしまい、誤って9手詰めの問題を掲載してしまいました。

↓こちらは正しくは9手です。

対戦相手駒				手数
b	1	r	1	19手

	a	b	c	d	e	f	
6	←					→	6
5							5
4							4
3				u		B	3
2					u		2
1	←				R	→	1
	a	b	c	d	e	f	

今回は

1. 解析プログラムのエラー
2. 画像化するときのヒューマンエラー

のうち2. が原因としてありましたが、

1. についてもやはり不安はございますので、
デバッグに努めたいと思います。

(本来これを論文執筆前におこなうべきでしたが、失念しておりました)
大変申し訳ございませんでした。